

# 創建

## そうこん

巻頭言／若井正一・1

平成18年度卒業研究テーマ・2～4

平成17年度卒業研究受理者・4～5

平成17年度大学院生一覧・6

新任の先生／教室ニュース・7

教職員名簿・8

2005・7・10 VOL.40 NO.1 (通巻116号)

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

最近、犬や猫などのペットを飼える「ペットマンション」が人気であると聞く。従来、集合住宅の多くは、ペットの鳴き声や衛生上の問題などからペットを飼わないことが入居条件となっているが、一人暮らしのお年寄りなどが、内緒で飼っていて、ペット嫌いの隣人たちとトラブルを起こすケースも少なくないようである。

住まいとペットの関係については、かつて卒研生たちと実態調査を行ったことがある。まず、自宅で飼っているペットの種類や生活上の問題点などについて一般の人にアンケート調査を行うとともに、ペットショップや保健所での聞き込みなどを実施した。また、早朝に犬の散歩をしている人から直接ヒアリング調査をするなど、予想以上に調査に苦労した覚えがある。その結果、ペットを飼っている家は、戸建住宅が多く、その種類は、大半が犬または猫であった。犬と猫の両方を飼っている場合もあるが、その他の主なペットは、小鳥、熱帯魚、は虫類などであった。

この犬や猫の種類には、流行があるようで、かつて室内犬としてよく飼われていたスピッツなどは、鳴き声がうるさいという理由などであまり見かけなくなった。猫は、放し飼いが多いせいか、近隣住民との衛生上のトラブルがしばしば指摘されたが、犬に比べて法的な規制がほとんどないことは意外であった。ペットと共生することは今後とも重要な課題であろうが、いずれにしても愛犬家、愛猫家のモラルが問われるところである。

そんな研究に明け暮れていたある時、私の研究室に一匹の犬が迷い込んできて住みついたことがある。ちなみに私の研究室の場所は、製図棟の3階にあるのだが、なぜか毎朝

のように階段を一目散に駆け上がってきて研究室のドアを前足で叩くのである。その犬は、茶色で毛足の短い中型の雑種犬で、顔が細長くて、しっぽが長いのが印象的であった。首輪は付いていなかったが、とても人なつこい犬だったので、多分誰かに飼われていた犬だと思う。特に吠えることもなくおとなしい犬で、いつしか研究室の仲間入りをしてしまった。

しかし、夜には研究室から出して外に放すのであるが、皆でかわいがったせいか、必ず毎日来るようになった。しばらくして、誰かがその犬に「リッキー」という名前をつけた。名前を呼ぶと嬉しそうに尾を振

## 『生き物との共生』

教授 若井正一

るようになった。研究室でゼミなどをしていても、机の下で気にする様子もなく寝そべて、時にはイビキをかく有様である。

ある時には、私が講義に出掛けるのに一緒に教室までついてきて、教壇の脇でじっと寝そべて聴講していた。その時は、さすがの私も、教室内に犬を入れると授業に支障があるのではと、かなり躊躇したのだが、意外にも学生諸君は、私の飼い犬と思っただけで、特に当惑した様子もなく、いつも通りに受講していた。

それから2～3か月もすると「リッキー」の存在は、あまり気にならなくなった。しかし、朝一番の授業で早朝出勤した私の姿を見かけると、「リッキー」は、一気に私の足元に走り寄ってきて、盛んにその長

いしっぽを振るのだが、それがふくらはぎに当たると鞭のようでとても痛かった。

そんな日々が続いていたある時、パツパツと「リッキー」の姿が見えなくなった。あれだけ毎日来ていたので、交通事故にでもあったか、野犬狩りにでも捕まったかと、研究室の皆で心配した。それからしばらくして、研究室の卒研生の一人が大学の近くで「リッキー」に似た犬を見かけたという。その犬は、知らないおじさんに首輪を付けられて散歩していた。彼が、その犬に向かって、「リッキー」と声を掛けたら、まったく振り向きもせずに行ってしまったという。以来、「リッキー」は、私の研究室に来ることはなくなった。

その後、私の研究室では金魚を飼い始めた。初代の金魚は、誰かが夜店の金魚すくいを取ってきた数匹であった。小さな金魚鉢に入れて研究室中央にある机の上に置いていたのだが、皆が交互に餌を与えたせいか、数ヶ月もしない内にみるみる大きくなった。そこで45cmの水槽に入れ替えて、水藻や酸素を発生する装置などを装備したところ、ほどなく沢山の卵が生まれた。それらの多くは、親に食べられてしまったが、その後育った金魚たちは、さらに成長して、最終的には60cmの水槽を2台購入する羽目になった。その金魚たちは、残念ながら3代目で途絶えてしまった。

オフィスや老人ホームなどに犬や猫などの動物を放して、精神的なストレスなどを和らげる「アニマルセラピー」という癒しの方法があるという。犬や猫の寿命は、その1年が概ねヒトの7年に相当するといわれるが、多様な人間の生活場面における生き物との共生について今後さらに深耕する必要がある。

(大学院専攻主任)

# 平成18年度 卒業研究テーマ一覧

下記の研究テーマは、平成18年度に向けた概要である。研究内容の詳細は、各自が希望する卒業研究の担当教員に直接たずねて下さい。

## 構造・材料系

### ■構造

倉田光春 教授〔論文〕

野内英治 専任講師〔論文〕

1. 構造フォームに関する研究  
自然界の進化アルゴリズムによって出現するかたちとつよさの神秘さを自然観察あるいは、経験則に基づく感覚的・実験的構造学で考察し、コンピュータシミュレーションによる検証を行う。
2. 構造解析法に関する研究  
各種構造物について、構造形態の最適化手法の開発や、弾塑性解析を行う。
3. 地盤・建物の地震時挙動に関する研究  
振動応答解析法の開発あるいは、地震波入力による地盤および建物モデルの振動実験と地乗応答解析を行う。
4. 空間構造（シェル・立体構造）に関する研究  
単層ラチスシェルの座屈実験と解析のための鋼管材の局部座屈に関する実験および解析を行う。
5. 構造材料に関する研究  
コンクリートおよび鋼材に関する実験および解析を行う。
6. 建築における情報技術の利用に関する研究
7. その他  
免振・制振構造に関する研究、海洋構造物の解析に関する研究など各自あるいは、グループの希望テーマを面接の上決定し、それに沿って研究を行う。

浅里和茂 助教授〔論文〕

1. 半剛接合部を有する鋼構造物の弾塑性解析
2. 鋼構造建築物の各種弾塑性解析法に関する研究
3. 鋼構造建築物の弾塑性振動解析
4. 鋼構造物の生産管理に関する研究
5. メディアのHTMLプログラミング

千葉正裕 助教授〔論文〕

1. 建物の近似振動解析法に関する研究
2. 情報研究棟およびその周辺地盤における地震動観測
3. 細長い平面形を有する建物の多点常時微動測定
4. 郡山市域の地盤および建物の振動性状に関する研究
5. 建物・杭・地盤連成振動系解析に関する研究
6. 各種構造解析プログラムの開発

パリーク サンジェイ 専任講師〔論文〕

1. 高強度コンクリート及び高強度鉄筋を用いた接合部の実験・解析※

2. 炭素繊維シートを用いたRCはりの耐震補強実験・解析※
3. 複合構造部材の研究・開発
4. 複合材料の力学的性状に関する研究

※1, 2は黒田教授の平成17年度建築ゼミナールからの共同研究。

### ■材料工学・建築化学

大濱嘉彦 教授〔論文〕

1. 有機物と無機物の複合による超高強度コンクリートの開発
2. 自己修復機能と自己防錆機能を持つインテリジェントコンクリートの開発
3. ビニロン及び炭素繊維補強モルタル及びコンクリートの性状及び用途開発
4. ポリマーセメントモルタル及びコンクリート中のポリマーとセメントの相互作用
5. 建築材料としての新素材の利用の可能性
6. 遷移帯の改質によるセメント系複合材料の高性能化
7. 廃発泡ポリスチレンを用いたポリマーコンクリート及びモルタルの開発

出村克宣 教授〔論文〕

1. 雨水の再資源化システムの開発
2. ポーラスコンクリートの性能改善策
3. 環境調和型建築材料・工法の開発
4. RC造建築物用補修材料・工法及び劣化診断システムの開発

渡澤正典 専任講師〔論文〕

1. コンクリート構造体の耐久性向上
2. コンクリート構造体の強度推定
3. 産業廃棄物のコンクリート製品への利用
4. オートクレープ養生コンクリートの品質改善
5. スラッジの有効利用に関する研究

## 計画・環境系

### ■建築計画・設計

若井正一 教授〔論文・設計〕

〔論文〕

1. 人体・動作寸法と生活スペースに関する研究
2. 人間の行動特性と安全性・快適性に関する研究
3. 各種建物のインテリアエレメントに関する研究
4. ヒトの五感と感覚刺激に関する人間工学的研究
5. 建築・インテリアの設計方法に関する研究
6. 建築・インテリアの資格職能に関する調査研究
7. その他（新規課題は、相談に応じます）

〔設計〕

1. 意外性のある空間の提案
2. その他（学内外のコンペ課題などを含む）

私たちの生活場面の中には、まだまだ解決すべき多様な問題が隠されています。論文、設計ともに自ら問題意識を持って興味を抱くテーマを組み立てることに なります。

特に、論文は、各テーマともに人間環境系の視点から、住まいやオフィスなどの具体的な場面を研究対象にして調査または実験の両面から問題点を探求するものです。

また、設計は、既成の概念にとらわれないで自らが構想する独創的な機能を持つ提案型の建築的空間等をデザインするものです。学内外のコンペなどにも挑戦することを勧めます。

なお、テーマの内容によっては共同研究を認めます。特に、建築CAD、インテリアデザイン、環境心理学などに興味を持つ、意欲のある卒研究生を歓迎します。

**松 井 壽 則** 助教授〔論文・設計〕

1. 高齢化社会に対応した住生活環境整備に関する研究
  - 1) 高齢化対応住宅に関する調査研究
  - 2) 高齢社会に対応した住宅施策展開に関する調査研究
  - 3) 身体障害者、高齢者などに配慮した住宅計画に関する調査研究
2. 高齢者に対する福祉サービス提供施設に関する研究
  - 1) 通所型住宅サービス提供施設に関する調査研究
  - 2) 特別養護老人ホームの計画に関する研究
  - 3) グループホーム（ユニットケアを含む）の計画に関する研究
3. 住宅・住宅地に関する調査研究
  - 1) 住宅団地の再生並びに更新に関する調査研究
  - 2) 公営集合住宅の時系列的変遷に関する調査研究
  - 3) 公営集合住宅の外部空間を核とした交流空間に関する調査研究
4. 児童・生徒に対する建築教育の可能性に関する実践研究
5. 保育園・幼稚園の計画に関する研究
6. 特殊学級、養護学校に関する調査研究
7. 上記テーマに関する設計

注意事項：希望者は、2年次、3年次設計課題をそれぞれ1作品、計2作品を持参し、設計の内容についての意見交換をおこない、選考の参考とします。  
また、先方の都合により調査を行なうことになるので、講義に追われずに済むよう、できるだけ必要な単位は3年次生で修得しておいて下さい。

**市 岡 綾 子** 専任講師〔論文・設計〕

1. 生活空間における居場所形成に関する研究
2. 学校施設、学習環境に関する研究
3. 子どもの環境行動に関する研究
4. 空間イメージ・空間認知に関する研究

5. その他

**浦 部 智 義** 専任講師〔論文・設計〕

〔論文〕

文化施設を中心に幅広い建築空間を対象として、そこにおける人の心理・行動と建築空間との関係性を探る研究を行おうと考えています。

人々のライフスタイルや価値観が多様化の方向に向かっていると云われます。それに伴って、人が建築空間から受ける印象や、建築空間における人の行動のあり方も時によって変化する部分もあります。一方、新しい素材や構法・技術によって、建築空間のあり方も進化しています。それらの建築空間における人の心理・行動と建築空間との関係性を分析することで、建築空間の計画・設計の際に有効な指針となる様な研究成果を得ることを目的としています。研究テーマの設定・研究手法は、研究成果を誰に見て欲しいか、またどの様に利用・実践して欲しいかで変わってきますが、十分に議論して行きたいと思えます。

〔設計〕

設計に関しては、何らかの説得力のある提案を求めます。柔軟な発想を身につけることとプレゼンテーション能力を高めることを主題としますが、基本的に図面・模型の作成が苦でない学生を歓迎します。

〔論文〕・〔設計〕とも、まずは現状に対して何らかの問題意識を持つことが肝要と考えます。

■都市計画・設計

**三 浦 金 作** 教授〔論文・設計〕

1. 探索歩行時の注視行動に関する研究（日本・外国）
 

はじめての都市空間で、来街者は何を手掛かりに空間移動をするのか探求する。

  - 1) 都市空間把握について
  - 2) 歩行行動について
  - 3) 注視行動と脳波
  - 4) 認知地図（スケッチ・マップ法）
2. 都市景観の研究（日本・外国）
 

これからの都市景観はどうあるべきなのか、景観からの都市づくりを模索する。

  - 1) 都市景観のイメージと評価
  - 2) 景観条例とまちづくり
  - 3) 夜間景観について
3. オープン・スペースの研究（日本・外国）
 

都市のアメニティ施設としてのオープン・スペースのあり方を模索する。

  - 1) 東京都A区のプチ・テラス（スモール・アーバンスペース）
  - 2) 大都市の広場公園
  - 3) 子供の遊び場
  - 4) 都市緑地・公園整備
  - 5) 公開空地
  - 6) 日本のオープン・スペース史
  - 7) アメリカの都市広場

## 4. 西欧都市の研究

西欧都市の空間構成原理を探求する。現地調査も実施する。

- 1) 水都・ヴェネツィアの都市空間特性 (イタリア)
- 2) ハンザ都市・リユーベックの都市空間特性 (ドイツ)
- 3) イタリア広場空間における人間の滞留行動について
- 4) 西欧都市史・建築史

## 5. その他の研究 (日本・外国)

上記研究のほかに、興味のある研究テーマがあれば相談して下さい。

- 1) 商業施設の立地傾向について
- 2) アーバン・ビヘイバー (都市空間での人間行動特性) について
- 3) 歩行者空間 (緑道、ショッピングモール、アーケード) の整備

## 6. 都市デザイン・まちづくり・建築設計

設計・デザイン希望者は、2・3年次の課題図面を持参して作品を説明して下さい。

## 土方吉雄 助教授 [論文・設計]

1. 都市の土地利用に関する研究
  - 1) 土地利用の更新過程
  - 2) 用途地域制
  - 3) 中心市街地
  - 4) 都市マスタープラン
2. 住宅・居住環境整備に関する研究
  - 1) 都心居住
  - 2) 環境共生住宅地
  - 3) 子どもの遊び環境
  - 4) 居住地の防犯設計
  - 5) 住宅マスタープラン・HOPE計画
  - 6) 街並み景観ワークショップ
  - 7) 近代化遺産とまちづくり

## 8) 市街地整備事業の評価手法

## 9) 住宅需給

## 3. 都市設計・まちづくり・建築設計

## ■建築史

## 狩野勝重 教授 [論文・設計]

1. 近世社寺建築の調査と研究
2. 東北地方における棟札調査
3. 文化的資産を活用した環境整備計画
4. 日本的都市のアイデンティティーについて
5. 地籍図の語る史的意味合
6. 自立型環境共生集落の形勢プロジェクト
7. その他、町づくりなど

[設計] 設計については、論文の延長上に位置付ける

## ■環境工学・建築設備

## 濱田幸雄 助教授 [論文]

1. 中山間地における伝送周波数特性に関する研究
2. 6chマイクロホンの開発とその応用に関する研究
3. 建具の遮音性能測定における内部音源法の適用に関する実験的検討
4. 変動騒音の評価方法に関する研究
5. サウンドスケープに関する研究

## 八町雅康 専任講師 [論文]

1. LANDSATデータ利用に関する研究
  2. AMeDASデータのデータベース化に関する研究
  3. ネット気象台の管理と可視化に関する研究
  4. 設備用デジタル教材の開発
  5. 設備施工現場に関する調査研究
- プログラム開発に関する希望があれば、相談の上、受け入れます。

## 平成17年度 建築学科卒業研究 受理者一覧

学生番号	氏名	指導教員	学生番号	氏名	指導教員	学生番号	氏名	指導教員
142002	青木 健次	濱田助教授	142022	猪越 慎也	渡澤講師	142040	大内 良太	濱田助教授
142004	阿部 豊和	狩野教授	142023	入江 裕太	三浦教授	142041	大河 仁	千葉助教授
142005	阿部 夏希	松井助教授	142024	岩坂 俊宏	若井教授	142042	大島 淳	黒田教授
142006	安部 光洋	黒田教授	142025	岩沢 彰則	倉田教授	142043	大谷 政人	倉田教授
142008	荒井 宏嘉	黒田教授	142026	上野 賢太	若井教授	142044	大中 孝洋	千葉助教授
142010	飯塚 洋平	浅里助教授	142027	上原 俊行	浅里助教授	142045	大林 洋介	土方助教授
142011	池田 真一	千葉助教授	142029	内田 武道	倉田教授	142046	大平 貴之	三浦教授
142012	石井 堯	三浦教授	142030	梅津 宗仁	有賀助教授	142047	大和田 聡	有賀助教授
142013	石井 健雄	土方助教授	142031	梅宮 陽介	若井教授	142048	岡崎 昇	若井教授
142015	石井 正人	三浦教授	142032	浦中 匠	千葉助教授	142049	岡田 崇志	三浦教授
142016	石澤 穰	濱田助教授	142033	江川 想	千葉助教授	142051	岡本 陽佑	野内講師
142017	井田 吉彦	野内講師	142035	遠藤 知絵	三浦教授	142052	萩無里 拓	若井教授
142018	市川 堅	濱田助教授	142036	遠藤 隆也	岩崎教授	142054	小藪 隆宏	濱田助教授
142019	市橋 悠	市岡講師	142037	大井田 智	千葉助教授	142055	越智 敬弘	黒田教授
142020	伊藤 慎也	千葉助教授	142038	大内 康	市岡講師	142056	尾登 敬樹	若井教授
142021	井上 潤一	若井教授	142039	大内 雄太	三浦教授	142057	角張 泰広	三浦教授

学生番号	氏名	指導教員	学生番号	氏名	指導教員	学生番号	氏名	指導教員
142058	笠原 幸代	松井助教授	142131	鈴木 皓太	松井助教授	142204	箕輪田 康行	渡澤講師
142060	片桐 俊之	野内講師	142132	鈴木佐江子	若井教授	142205	棟方 大輔	出村教授
142061	加藤 圭祐	岩崎教授	142133	鈴木 翔子	松井助教授	142207	森 裕克	大濱教授
142062	加藤 雄太	倉田教授	142135	清野 寿彦	倉田教授	142208	森尾 文彦	出村教授
142063	金子 昌史	渡澤講師	142136	関根 淳	岩崎教授	142209	森田 睦美	松井助教授
142064	紙山 友輔	濱田助教授	142137	瀬谷 安孝	岩崎教授	142210	森村 雄一	土方助教授
142065	鴨川 智和	千葉助教授	142138	宗川ひとみ	若井教授	142211	矢崎 亘	大濱教授
142066	河合 拓郎	千葉助教授	142139	添田 光平	岩崎教授	142213	安井 孝典	濱田助教授
142068	菅野 佑介	三浦教授	142140	染谷 昶位	浅里助教授	142214	谷地田寿英	市岡講師
142070	菊池 惇	出村教授	142141	高井 裕香	土方助教授	142215	柳川 雅嘉	倉田教授
142071	菊池 弘悦	出村教授	142142	高木 喜宣	倉田教授	142216	山口 哲生	三浦教授
142072	北澤 広貴	渡澤講師	142143	高澤 伸弥	倉田教授	142217	山口 陽子	市岡講師
142073	木村 智彦	市岡講師	142144	高橋 徹	野内講師	142218	山崎 達郎	市岡講師
142074	木村 勇介	狩野教授	142145	高橋 直也	若井教授	142221	山田 真美	市岡講師
142076	金 學泳	千葉助教授	142146	高橋 雅也	市岡講師	142222	横山 達	濱田助教授
142077	日下 祥子	岩崎教授	142147	瀧川さや香	若井教授	142223	吉田 絢子	野内講師
142078	草野 健	千葉助教授	142148	武井 千尋	土方助教授	142225	吉田 航太	野内講師
142079	草野 美咲	倉田教授	142149	田中 克明	パルク講師	142227	吉田 幸恵	松井助教授
142081	久保田浩司	岩崎教授	142150	田中 健	若井教授	142228	吉野 元	有賀助教授
142082	久保田裕典	渡澤講師	142151	玉橋 賢樹	野内講師	142229	吉本 正俊	三浦教授
142083	熊谷 淳史	濱田助教授	142152	田村 拓朗	浅里助教授	142230	四柳 誠	土方助教授
142084	熊田 慎吾	狩野教授	142153	田村 愛美	若井教授	142231	若林 弘司	土方助教授
142085	倉持 竜士	濱田助教授	142154	千葉 崇史	浅里助教授	142232	渡部 顕樹	千葉助教授
142086	小池 拓郎	岩崎教授	142155	千葉 貴之	浅里助教授	142233	渡辺 浩世	濱田助教授
142087	小板橋良太	市岡講師	142156	塚田 光輝	野内講師	142234	渡辺 祐斗	八町講師
142088	幸田 和浩	パルク講師	142157	土崎 涼	浅里助教授	142235	渡邊真由美	土方助教授
142089	国分 佑一	パルク講師	142158	坪山 喜胤	パルク講師	142236	渡邊 要介	倉田教授
142091	小田部浩之	有賀助教授	142161	中川 貴仁	大濱教授	142238	渡邊 重紀	出村教授
142092	小玉 直八	浅里助教授	142162	中岸 竜也	浅里助教授	142601	太田 尚志	大濱教授
142093	小辻 修平	三浦教授	142163	中切 優子	土方助教授	142602	松原 邦広	狩野教授
142094	小林 稔之	渡澤講師	142164	中野 陽子	倉田教授			
142096	駒形百合子	若井教授	142165	中村 洋輔	野内講師	132020	伊東 伸高	出村教授
142097	駒田 崇	野内講師	142168	成沢 克文	倉田教授	132026	上田 樹	渡澤講師
142098	小山 博史	大濱教授	142171	新田 拓之	浅里助教授	132028	宇治川 遼	パルク講師
142099	小山 良寛	千葉助教授	142172	額賀 陽介	若井教授	132039	岡本 啓	若井教授
142100	斉藤 歩美	倉田教授	142173	沼田 誠史	大濱教授	132042	小高 利仁	土方助教授
142101	斉藤 慎弥	浅里助教授	142174	野崎 絵美	岩崎教授	132056	熊木 秀年	渡澤講師
142102	斉藤 浩史	土方助教授	142175	野々山哲一	浅里助教授	132061	古家 諭	出村教授
142103	齊藤 恵	市岡講師	142177	萩原 順一	浅里助教授	132083	佐野 達郎	出村教授
142104	齋藤 宣宏	市岡講師	142178	橋本 慧一	濱田助教授	132105	須藤 塁己	大濱教授
142105	齋藤 友紀	渡澤講師	142179	橋本 健太	若井教授	132107	諏訪 義徳	濱田助教授
142106	坂田 孝純	土方助教授	142180	八須真美子	土方助教授	132122	田中 裕基	倉田教授
142107	坂本 裕二	三浦教授	142183	原田 裕樹	濱田助教授	132124	谷平 大樹	出村教授
142108	佐久間大輔	狩野教授	142185	菱沼 俊也	大濱教授	132128	月村 昂	浅里助教授
142110	佐々木悠也	狩野教授	142186	平井智恵美	土方助教授	132135	中里 崇	市岡講師
142111	佐藤 圭太	出村教授	142187	廣瀬 勇輔	市岡講師	132137	長友 弓恵	市岡講師
142114	佐藤 憲康	倉田教授	142188	藤崎 正人	大濱教授	132140	根本 重臣	渡澤講師
142116	佐藤 雅俊	土方助教授	142189	藤島 英寿	若井教授	132167	増子 智裕	野内講師
142117	佐藤 美佳	市岡講師	142190	船方 峻	松井助教授	132168	増渕 貴規	浅里助教授
142118	佐藤 泰裕	狩野教授	142191	古舘 章	土方助教授	132171	松田 和樹	野内講師
142119	佐藤 友紀	市岡講師	142192	細井 憲市	若井教授	132178	宮田 健	野内講師
142121	志賀 陽介	野内講師	142193	堀内 優子	岩崎教授	132186	安田 貴夫	八町講師
142122	澁井 尚也	出村教授	142194	堀山 正喬	有賀助教授	132192	山口 友治	千葉助教授
142126	徐 叔偉	千葉助教授	142197	増田 幸恵	土方助教授	132602	千葉 義弘	倉田教授
142127	末安 惟一	野内講師	142198	松永 裕一	岩崎教授			
142128	杉山 和隆	倉田教授	142201	水下 翼	浅里助教授	122074	清田 剛	有賀助教授
142129	助川 泰明	岩崎教授	142202	水谷 大志	濱田助教授	122171	根本 忠美	浅里助教授
142130	鈴木 都秀	松井助教授	142203	溝口 紗世	濱田助教授			

## 平成17年度 大学院建築学専攻在籍生一覧

### ■博士後期課程

学生番号	氏名	所属研究室
1321	日比野 巧	千葉助教授
1421	増子 順一	若井教授
1521	田綿 隆文	岩崎教授
1621	本多 薫	若井教授

### ■博士前期課程（2年）

学生番号	氏名	所属研究室
16201	石田 圭司	黒田教授
16202	遠藤 泰司	佐藤教授
16203	太田 浩市	松井助教授
16204	太田 将弘	大濱教授
16205	上村 貴弘	浅里助教授
16206	神山 知則	岩崎教授
16207	木下 裕介	松井助教授
16208	木村 友明	若井教授
16209	小堀まどか	若井教授
16211	斎藤 俊克	出村教授

### ■博士前期課程（1年）

学生番号	氏名	所属研究室
16212	佐藤 貴晴	倉田教授
16213	島田 七海	濱田助教授
16214	杉永 順子	松井助教授
16215	鈴木 崇	若井教授
16216	鈴木 康史	有賀助教授
16217	高梨 秀樹	若井教授
16218	高橋 敏紀	倉田教授
16219	竹内亜紗美	三浦教授
16220	中野晃太郎	若井教授
16221	保科 孝好	千葉助教授
16222	増井 正孝	濱田助教授
16223	松下 幸太	土方助教授
16224	松村 健史	佐藤教授
16225	森田 健	濱田助教授
16226	梁取 由生	倉田教授
16227	山森 雄介	出村教授
16228	和田 康広	倉田教授
17201	阿部 憲介	土方助教授
17202	桑田 陽平	黒田教授
17203	國分 友貴	大濱教授
17204	相楽 哲平	出村教授
17205	佐々木一人	出村教授
17206	篠崎 賢司	倉田教授
17207	杉本 昇平	土方助教授
17208	鈴木 綾香	倉田教授
17209	鈴木 裕介	黒田教授
17210	平 奈穂美	佐藤教授
17211	田邊 誠	土方助教授
17212	津久井 勲	大濱教授
17213	根本 賢	若井教授
17214	別所 知彦	松井助教授
17215	宮林 大輔	有賀助教授
17216	山浦 茜	土方助教授

## 学 術 論 文

- 田綿隆文、岩崎 博、土方吉雄、街並み構成材料の地域特性に関する調査研究—その4 外装仕上多様化—統一化傾向評価式の提案と一般市街地及び歴史的地域内中心業務地区への適用—、日本大学工学部紀要第46巻第2号、平成17年3月
- 大濱嘉彦、諸岡淳史、“廃発泡ポリスチレン溶液系結合材を用いたポリマーモルタルの初期性状”，コンクリート工学年次論文集，Vol.27, No.1 , June 2004, pp.1477-1482

## 研 究 発 表

\*届出があった論文を掲載

- セメント技術大会 日時：17年5月25～27日 場所：全共連ビル（東京）
  - ・再乳化形粉末樹脂と亜硝酸型ハイドロカルマイトを併用したポリマーセメントモルタルの性質  
大濱 嘉彦・○太田 将弘
- コンクリート工学年次大会2005 日時：平成17年6月22～24日 場所：名古屋国際会議場（愛知県）
  - ・廃発泡ポリスチレン溶液系結合材を用いたポリマーモルタルの初期性状 ○大濱 嘉彦・諸岡 淳史
- 日本建築学会東北支部研究発表会 日時：平成17年6月11～12日 場所：文翔館（山形市）
  - ・廃発泡ポリスチレンのメタクリル酸メチル溶液を結合材として用いたポリマーコンクリートの物理的性質  
○津久井 勲・大濱 嘉彦・太田 将弘
  - ・亜硝酸型ハイドロカルマイトと硬化剤無添加エポキシ樹脂を併用したポリマーセメントモルタルの接着強さ  
○国分 友貴・大濱 嘉彦・太田 将弘
  - ・閉空間における歩行時の生体負担に関する検討—心拍変動による評価— ○本多 薫・若井 正一

## 新任の先生

### 専任講師 浦部 智義

担当科目：学部・建築計画、建築設計演習



2005年4月に日本大学工学部に専任講師として着任致しました。学部ゼミから大学院生時代は、東京電機大学で船越徹氏に師事し、文化施設を中心に人の心理・行動と建築空間との関係性を分析する研究活動を行ってまいりました。プロフェッサーアーキテクトであった師の影響で、当時、研究活動を行う大学研究室とコンペ・設計・計画等の協力を行う設計事務所を、頻繁に行き来していたのは良い思い出です。

大学院で専門である建築計画学を修了した後、母校で計画系の非常勤講師をする傍ら、日本学術振興会特別研究員として、文化施設の他にも対象を広げ、様々な建築・都市空間に関する研究に携わりました。また当時、幾つかの設計事務所プロジェクトにも参加させて頂いて、自身の研究成果が実際の設計・計画に多少なりとも活かせることが確認できたことは、現在まで研究活動を続ける励みになっております。

その後、人々の意識や行動をより深く分析できる場を求めて、マーケティングを中心とする民間シンクタンクに2年間ほど勤務しました。そこで、住宅・施設をはじめコンビニ・書籍・車から様々な余暇活動など、価値観や欲求に基づいた消費行動を様々な角度から分析し商品開発につなげるといった業務に従事できたことは、より幅広く社会を知る良い機会を得ました。

4月から新たな段階に入ったわけですが、日本大学工学部の学生さんと、将来に亘って良い時間を過ごせるように努力して行きたいと思っております。

### 非常勤講師 早草 睦恵

担当科目：学部・建築設計演習



1986年に東京大学の建築学科を卒業し、岡設計に2年、日本設計に3年間勤務しまして、那須野が原ハーモニーホールの公開コンペ1等を機に1991年に独立しました。岡設計では、練馬区立軽井沢高原寮などの公共施設の設計に、日本設計では伊豆や浦安のリゾートホテルの設計に携わりました。コンペは日本設計在職中に大学時代の友人と共同で応募しました。思わぬ転機となり、28歳という若い年齢で独立することになりました。これは栃木県の大田原市と西那須野町という二つの市町が共同で設立した文化施設です。昨年で完成して10年を迎え90万人の人々に利用頂きました。公共のホールとしては高い稼働率です。またクラシック音楽ホールの音響には定評があり演奏者に喜ばれております。その後は個人住宅、別荘、オフィスビル、企業美術館、個人医院などの仕事を手がけております。人生の約半分を建築の設計の仕事に費やしたことになります。仕事を通して思うのは、建築のデザインは色々な意味でコミュニケーションだということです。うまくデザインされたものは、その意図ができあがった建築と環境を通して多くの人に伝わります。また、建物が完成するまでの過程で多くの関係者とのコミュニケーションを通して、その意図の総体が形となって残ります。苦勞の多い仕事ですが、とても楽しいと思っております。人とコミュニケーションを取りながら、作り上げた環境で人を喜ばせるための職業であるという意識の元に勉学に励んで頂きたいと思っております。

■日本大学工学部主催の第34回・ヨーロッパ研修旅行（団長：若井教授）が、60名の学生（建築学科学生23名）が参加して2月23日から3月8日まで実施され、無事帰国した。

■濱田助教授は、下記の委員を委嘱された。①日本建築学会音環境運営委員会委員、②日本建築学会集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会委員、③日本音響学会編集委員会誌部会幹事（4月）

■若井教授は、社団法人・私立大学情報教育協会の建築学情報教育研究委員会委員長に再任された。（4月1日付け、任期2年間）

■大濱教授は、4月28日に開催された、

平成17年度第1回福島県産業廃棄物再資源化研究会において、会長に再任された。

## 教室ニュース

■日本大学総長選挙の投票が、6月22日に実施され、開票の結果、現理工学部学部長の小嶋勝衛教授が当選した。任期は、9月1日から3年間。なお、小嶋教授は、本学部の大学院建築学専攻の兼任教授。

■本学科卒業生の若林克友君（若井研）は、天栄村における廃校を活用した木工の製作活動が、NHK総合テレビの番組「小さな旅」の中で全国放映された。（6月26日）

■人事：4月1日付けで、浦部智義専任講師（本誌に記事掲載）が赴任した。なお、非常勤講師として大学院の建築計画学特論Ⅱに長澤 泰氏、本年度から新設された建築設計特別演習に三浦敏伸氏、熊倉洋介氏、学部の建築設計演習Ⅲに早草睦恵氏（本誌に記事掲載）が赴任した。平成17年度建築学科主任に倉田教授（再任）、大学院建築学専攻主任に若井教授（新任）が就任した。

